



FY2025 Q3

2025年度第3四半期 決算説明資料

2026年2月10日

1. 2025年度 第3四半期実績

2. 2025年度 通期業績予想

3. 参考資料

1

2025年度 第3四半期実績

2025年度 第3四半期累計実績

2025年度第3四半期累計連結業績

(単位:億円)

	FY2024 3Q累計実績	FY2025 3Q累計実績	前年同期比
売上高	4,919	5,828	+909
事業利益	36	288	+252
ブラマー カカオ特殊要因	▲265	▲94	+171
カカオ特殊要因を 除く実質事業利益	301	382	+81
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	▲16	164	+180

売上高 **5,828**億円 前年同期比 **+909** 億円

カカオなどの原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇により増収。

事業利益 **288**億円 前年同期比 **+252** 億円

植物性油脂事業のチョコレート用油脂(CBE)の堅調な販売や、業務用チョコレート事業ブラマーでのカカオに関連した特殊要因(以下、カカオ特殊要因)の費用減少を主因に増益。

四半期利益 **164**億円 前年同期比 **+180** 億円

植物性油脂事業の伸長、ブラマーでのカカオ特殊要因の費用減少により増益。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

* 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

2025年度 第3四半期累計実績／事業別

2025年度第3四半期累計事業別業績

(単位:億円)

	FY2024 3Q累計実績	FY2025 3Q累計実績	前年同期比
売上高	4,919	5,828	+909
植物性油脂事業	1,518	2,017	+500
業務用チョコレート事業	2,420	2,826	+406
乳化・発酵素材事業	712	734	+22
大豆加工素材事業	269	250	▲19
事業利益	36	288	+252
植物性油脂事業	186	266	+80
業務用チョコレート事業	▲165	14	+179
カカオ特殊要因を除く 業務用チョコレート事業	99	108	+8
乳化・発酵素材事業	19	14	▲6
大豆加工素材事業	▲1	▲2	▲1
連結調整	▲2	▲3	▲1

事業別 事業利益



植物性油脂

- ・チョコレート用油脂(CBE)の販売は堅調に推移し、販売価格の上昇も増益に寄与。



業務用チョコレート

- ・コンパウンドチョコレートの販売は堅調に推移。
- ・ブラマーは米国チョコレート消費の減退に伴いピュアチョコレートの販売数量が減少したが、価格適正化に加えて、カカオ特殊要因の費用が減少。



乳化・発酵素材

- ・原材料価格の上昇や、アジアでの需要低迷に伴う販売数量の減少により減益。



大豆加工素材

- ・機能剤の販売数量が減少。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

* 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

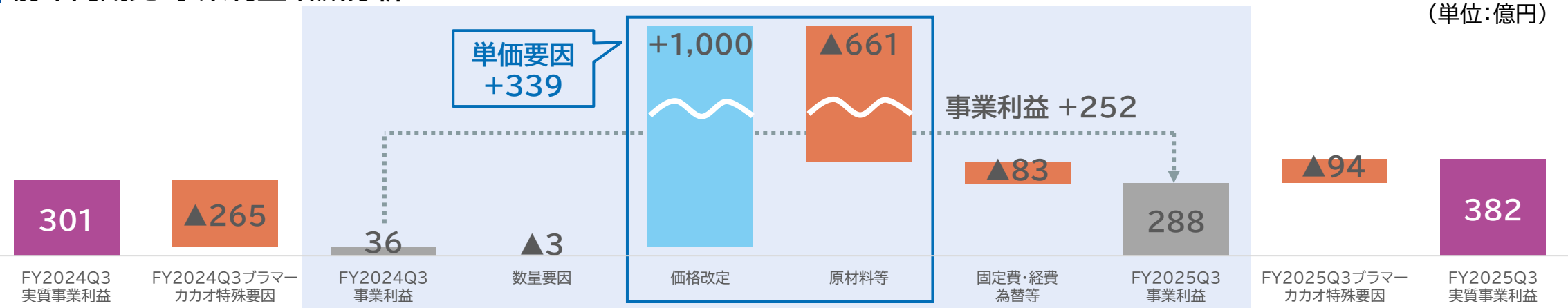
2025年度 第3四半期累計 事業利益増減分析

不二製油株式会社

チョコレート用油脂(CBE)の需要拡大により事業利益は252億円増益の288億円を達成。

前年同期比 事業利益増減分析

(単位:億円)



数量要因	業務用チョコレート事業ブラマーの販売数量が減少。
単価要因	原材料価格の上昇に対応する販売価格適正化に加え、植物性油脂事業のCBEの販売価格上昇が寄与。
固定費・経費 ・為替等	人件費等の固定費が上昇。
ブラマー カカオ特殊要因	カカオ特殊要因については13ページ参照。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

B/S・C/F

棚卸資産、有利子負債は増加したものの、収益性改善や運転資本の効率化により期末に向けて改善を見込む。

B/S

(単位:億円)

	FY2024期末 (IFRS)	FY2025Q3期末 (IFRS)
現金及び現金同等物	708	438
棚卸資産	1,607	1,929
のれん	208	302
資産合計	5,971	6,797
有利子負債	2,837	3,233
負債合計	3,862	4,365
利益剰余金	1,509	1,630
資本合計	2,109	2,432

・2025年度 第3四半期末

資産 原材料価格の上昇や新規連結会社の取得により資産が増加。

負債 運転資本増加に伴い有利子負債が増加。

C/F

(単位:億円)

	FY2024Q3 (IFRS)	FY2025Q3 (IFRS)
営業債権の増減(▲は増加)	▲327	▲156
棚卸資産の増減(▲は増加)	▲317	▲171
営業CF	▲484	▲90
投資CF	▲132	▲412
FCF	▲615	▲501
短期借入金の純増減額(▲は減少)	668	▲295
長期借入れによる収入	176	599
財務CF	710	198

・2025年度 第3四半期

営業CF 前年同期比では価格改定の進捗により営業CFは改善。

投資CF 新規連結会社の取得や業務用チョコレート事業での設備投資により、支出が増加。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

第3四半期累計:売上高・事業利益(事業別・所在地別マトリクス)

(単位:百万円)

売上高	年度	日本		欧米		アジア		連結計	
			YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2025 3Q実績(IFRS)	59,150	+10,435	105,114	+33,559	37,449	+5,963	201,714	+49,958
	2024 3Q実績(IFRS)	48,714	-	71,555	-	31,486	-	151,755	-
業務用 チョコレート	2025 3Q実績(IFRS)	51,512	+10,191	194,800	+25,914	36,333	+4,519	282,646	+40,625
	2024 3Q実績(IFRS)	41,321	-	168,885	-	31,813	-	242,020	-
乳化・発酵素材	2025 3Q実績(IFRS)	47,954	+1,535	-	-	25,435	+635	73,389	+2,171
	2024 3Q実績(IFRS)	46,419	-	-	-	24,799	-	71,218	-
大豆加工素材	2025 3Q実績(IFRS)	24,627	▲1,822	16	+16	389	▲49	25,033	▲1,856
	2024 3Q実績(IFRS)	26,449	-	-	-	439	-	26,889	-
売上高計	2025 3Q実績(IFRS)	183,244	+20,340	299,932	+59,490	99,607	+11,068	582,783	+90,899
	2024 3Q実績(IFRS)	162,904	-	240,441	-	88,538	-	491,884	-

事業利益	年度	日本		欧米		アジア		連結調整		連結計	
			YOY		YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2025 3Q実績(IFRS)	10,263	+3,562	8,358	+1,902	8,709	+3,104	▲686	▲525	26,645	+8,043
	2024 3Q実績(IFRS)	6,700	-	6,456	-	5,605	-	▲160	-	18,601	-
業務用 チョコレート	2025 3Q実績(IFRS)	4,995	▲1,516	▲6,823	+21,168	2,909	▲2,133	276	+383	1,357	+17,901
	2024 3Q実績(IFRS)	6,511	-	▲27,991	-	5,042	-	▲107	-	▲16,544	-
乳化・発酵素材	2025 3Q実績(IFRS)	1,604	▲312	-	-	▲367	▲524	124	+281	1,361	▲556
	2024 3Q実績(IFRS)	1,917	-	-	-	157	-	▲156	-	1,918	-
大豆加工素材	2025 3Q実績(IFRS)	493	+298	▲726	▲130	81	▲105	▲82	▲158	▲234	▲97
	2024 3Q実績(IFRS)	195	-	▲595	-	186	-	76	-	▲136	-
連結調整	2025 3Q実績(IFRS)	▲34	▲29	▲321	▲318	▲59	+50	91	+214	▲324	▲82
	2024 3Q実績(IFRS)	▲4	-	▲2	-	▲110	-	▲123	-	▲241	-
事業利益計	2025 3Q実績(IFRS)	17,322	+2,001	487	+22,621	11,272	+390	▲276	+194	28,805	+25,208
	2024 3Q実績(IFRS)	15,320	-	▲22,133	-	10,881	-	▲471	-	3,597	-

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。



2

2025年度 通期業績予想

2025年度 通期業績予想

2025年度通期業績予想

(単位:億円)

	FY2024 通期実績	FY2025 修正予想	前期比	FY2025 期初予想
売上高	6,712	7,720	+1,008	8,000
事業利益	133	365	+232	295
ブラマー カカオ特殊要因	▲305	▲95	+210	▲30
カカオ特殊要因を 除く実質事業利益	438	460	+22	325
親会社の所有者に帰属する 当期利益	39	165	+126	165
配当(年間 単位:円)	52	52	—	52

通期連結業績の修正について

売上高は、ブラマーでの販売数量の減少を見込み、下方修正。
 事業利益は、植物性油脂事業での伸長を見込み、上方修正。
 当期利益は、ブラマーが回復基調ではあるものの、第4四半期の実績を踏まえた上で将来計画を精査し、慎重に評価する必要があることから、期初予想を据え置き。
 また、期末配当は26円(年間52円)を計画。

通期連結業績予想について

売上高 **7,720** 億円 前期比 **+1,008** 億円

カカオなどの原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇により増収を計画。

事業利益 **365** 億円 前期比 **+232** 億円

植物性油脂事業のチョコレート用油脂(CBE)の堅調な販売や、業務用チョコレート事業ブラマーでのカカオ特殊要因の費用減少を主因に増益を計画。

当期利益 **165** 億円 前期比 **+126** 億円

事業利益伸長により、増益を計画。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。
 * 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

2025年度 通期業績予想／事業別

2025年度通期業績事業別予想				
(単位:億円)				
	FY2024 通期実績	FY2025 修正予想	前期比	FY2025 期初予想
売上高	6,712	7,720	+1,008	8,000
植物性油脂事業	2,073	2,708	+635	2,485
業務用チョコレート事業	3,347	3,717	+370	4,158
乳化・発酵素材事業	943	961	+18	1,000
大豆加工素材事業	349	334	▲15	357
事業利益	133	365	+232	295
植物性油脂事業	268	329	+61	197
業務用チョコレート事業	▲142	44	+185	106
カカオ特殊要因を除く 業務用チョコレート事業	164	139	▲25	136
乳化・発酵素材事業	17	13	▲4	13
大豆加工素材事業	▲8	▲12	▲4	2
連結調整	▲2	▲8	▲5	▲22

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。
* 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

セグメント別概況



植物性油脂事業

(単位:億円)

	FY2024 Q3累計	FY2025 Q3累計	FY2024 通期実績	FY2025 修正予想	前期比
売上高	1,518	2,017	2,073	2,708	+635
事業利益	186	266	268	329	+61

第3四半期累計期間の動向(前年同期比)

チョコレート用油脂(CBE)の販売伸長が寄与し、事業利益は大幅に増加。

日本

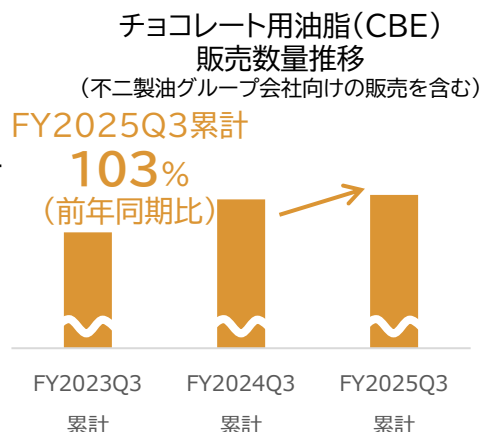
CBEの配合量上昇などにより販売数量が増加。

欧米

米州では、チョコレート菓子市場の停滞は続くも、CBE販売価格は上昇。

アジア

CBE需要は引き続き堅調。



2025年度通期予想達成に向けて

CBEの底堅い販売を見込み、通期計画の達成を図る。



業務用チョコレート事業(ブラマー除く)

(単位:億円)

	FY2024 Q3累計	FY2025 Q3累計	FY2024 通期実績	FY2025 修正予想	前期比
売上高	1,093	1,361	1,537	1,817	+280
事業利益	145	108	185	139	▲46

第3四半期累計期間の動向(前年同期比)

原材料価格の上昇の影響が見られるものの、コンパウンドチョコレートの販売は底堅く推移。

日本

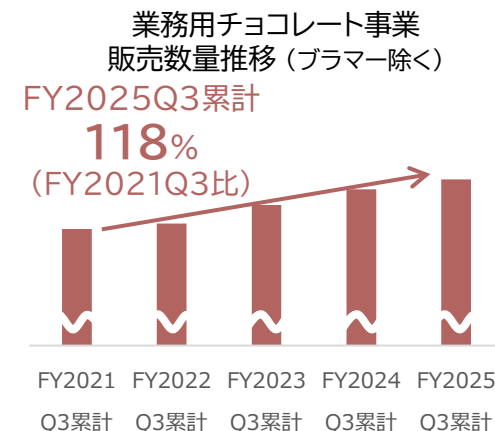
コンパウンドチョコレートの堅調な販売が継続。

欧米

ブラジルでは、コンパウンドチョコレートの販売が伸長。

アジア

販売数量は増加も、原材料価格上昇により採算性が低下。



2025年度通期予想達成に向けて

原材料価格高騰の影響は継続を見込むも、コンパウンドチョコレートの拡販により達成を図る。

ブラマー業績と通期予想

2025年度 ブラマー業績

	FY2025 上期実績	FY2025 3Q実績	FY2025 3Q累計実績
売上高	983	483	1,465
事業利益	▲76	▲11	▲87
内)カカオ特殊要因	▲78	▲15	▲94
カカオ特殊要因を除く事業利益	2	4	7

(単位:億円)

FY2025 通期修正予想	FY2025 通期期初予想	FY2024 通期実績
1,900	2,435	1,809
▲84	15	▲311
▲95	▲30	▲305
11	45	▲5

		上期実績 4-9月	3Q実績 10-12月	
カカオ 特殊 要因	先物 評価	—	—	2024年度第4四半期以降、 自社アカウントでのカカオ先物ポジションを縮減。
	販売 期ズレ	▲15億円	7億円	販売価格の上昇により、販売期ズレが改善。
	先物限月 乗換 コスト	▲63億円	▲22億円	価格転嫁の浸透により、先物限月乗換コストが低下。
カカオ特殊要因を 除く事業利益		2億円	4億円	市況低迷により販売数量は減少するも、 販売価格の適正化が進む。

通期予想

—

0億円

▲95億円

11億円

需要低迷の長期化に伴う販売数量の減少を背景に、価格改定後の契約における販売進捗が想定よりも下回ると見込み、業績を下方修正。

成長戦略のコンパウンド製品については、拡販を継続。

セグメント別概況



乳化・発酵素材事業

(単位:億円)

	FY2024 Q3累計	FY2025 Q3累計	FY2024 通期実績	FY2025 修正予想	前期比
売上高	712	734	943	961	+18
事業利益	19	14	17	13	▲4

第3四半期累計期間の動向(前年同期比)

原材料価格の上昇や、アジアでの需要低迷に伴う販売数量の減少により減益。

日本

クリームやフィリングの
販売が堅調に推移。

アジア

市況変化に伴い、販売
数量が減少。



日本では、チーズフィリングの販売が伸長



大豆加工素材事業

(単位:億円)

	FY2024 Q3累計	FY2025 Q3累計	FY2024 通期実績	FY2025 修正予想	前期比
売上高	269	250	349	334	▲15
事業利益	▲1	▲2	▲8	▲12	▲4

第3四半期累計期間の動向(前年同期比)

事業再編により経費削減が進むも、日本での機能剤の販売数量の減少等により減益。

日本

機能剤の販売数量は減少。

欧米・
アジア

固定費の増加により減益。



顧客工場での作業工程の簡略化・
省人化に寄与する製品を拡販

2025年度通期予想達成に向けて

日本では、高付加価値製品群の提案を強化。
アジアでは、市況変化に合わせた販売施策により販売拡大を図る。

2025年度通期予想達成に向けて

課題解決型製品の展開による拡販を進める。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

2. 2025年度 通期業績予想

通期:売上高・事業利益(事業別・所在地別マトリクス)

不二製油株式会社

(単位:億円)

売上高	年度	日本	YOY	欧米	YOY	アジア	YOY	連結計	YOY
植物性油脂	2025 修正予想(IFRS)	753	+98	1,463	+498	492	+38	2,708	+635
	2025 期初予想(IFRS)	720	+65	1,275	+310	490	+36	2,485	+412
	2024 実績(IFRS)	655	-	965	-	454	-	2,073	-
業務用 チョコレート	2025 修正予想(IFRS)	680	+100	2,559	+216	478	+53	3,717	+370
	2025 期初予想(IFRS)	660	+80	3,018	+675	480	+55	4,158	+811
	2024 実績(IFRS)	580	-	2,343	-	425	-	3,347	-
乳化・発酵素材	2025 修正予想(IFRS)	622	+10	-	-	339	+8	961	+18
	2025 期初予想(IFRS)	640	+28	-	-	360	+29	1,000	+57
	2024 実績(IFRS)	612	-	-	-	331	-	943	-
大豆加工素材	2025 修正予想(IFRS)	328	▲16	1	+1	5	▲1	334	▲15
	2025 期初予想(IFRS)	350	+6	2	+2	5	▲1	357	+8
	2024 実績(IFRS)	344	-	-	-	6	-	349	-
売上高計	2025 修正予想(IFRS)	2,383	+193	4,023	+715	1,314	+99	7,720	+1,008
	2025 期初予想(IFRS)	2,370	+180	4,295	+987	1,335	+120	8,000	+1,288
	2024 実績(IFRS)	2,190	-	3,308	-	1,215	-	6,712	-

事業利益	年度	日本	YOY	欧米	YOY	アジア	YOY	連結調整	YOY	連結計	YOY
植物性油脂	2025 修正予想(IFRS)	126	+33	100	+19	110	+13	▲7	▲3	329	+61
	2025 期初予想(IFRS)	62	▲30	73	▲8	62	▲36	-	+4	197	▲71
	2024 実績(IFRS)	92	-	81	-	98	-	▲4	-	268	-
業務用 チョコレート	2025 修正予想(IFRS)	60	▲28	▲53	+223	34	▲25	3	+15	44	+185
	2025 期初予想(IFRS)	46	▲42	37	+314	22	▲37	-	+13	106	+247
	2024 実績(IFRS)	88	-	▲276	-	59	-	▲13	-	▲142	-
乳化・発酵素材	2025 修正予想(IFRS)	13	▲6	-	-	▲1	▲2	1	+3	13	▲4
	2025 期初予想(IFRS)	12	▲7	-	-	1	+1	-	+2	13	▲4
	2024 実績(IFRS)	19	-	-	-	0	-	▲2	-	17	-
大豆加工素材	2025 修正予想(IFRS)	▲4	▲0	▲10	▲2	2	▲1	▲1	▲1	▲12	▲4
	2025 期初予想(IFRS)	7	+11	▲7	+1	2	▲1	-	▲0	2	+10
	2024 実績(IFRS)	▲4	-	▲8	-	3	-	0	-	▲8	-
連結調整	2025 修正予想(IFRS)	▲0	▲0	▲3	▲3	▲1	+0	▲4	▲2	▲8	▲5
	2025 期初予想(IFRS)	-	+0	-	+0	-	+1	▲22	▲21	▲22	▲20
	2024 実績(IFRS)	▲0	-	▲0	-	▲1	-	▲1	-	▲2	-
事業利益計	2025 修正予想(IFRS)	194	▲1	34	+237	144	▲15	▲7	+12	365	+232
	2025 期初予想(IFRS)	127	▲68	103	+306	88	▲72	▲22	▲3	295	+162
	2024 実績(IFRS)	195	-	▲203	-	160	-	▲19	-	133	-

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

3

参考資料

IFRSの任意適用について

- ・2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を適用。
- ・業績管理指標として「事業利益」を設定。

会計基準変更による影響 (単位: 億円)

	FY2024 Q3累計実績	FY2024 通期実績
営業利益(日本基準)	5	99
+ 会計基準差異の調整	+19	+17
+ その他営業外収益/費用・為替差損益	+1	+3
+ 持分法投資損益	+10	+13
事業利益(IFRS)	36	133

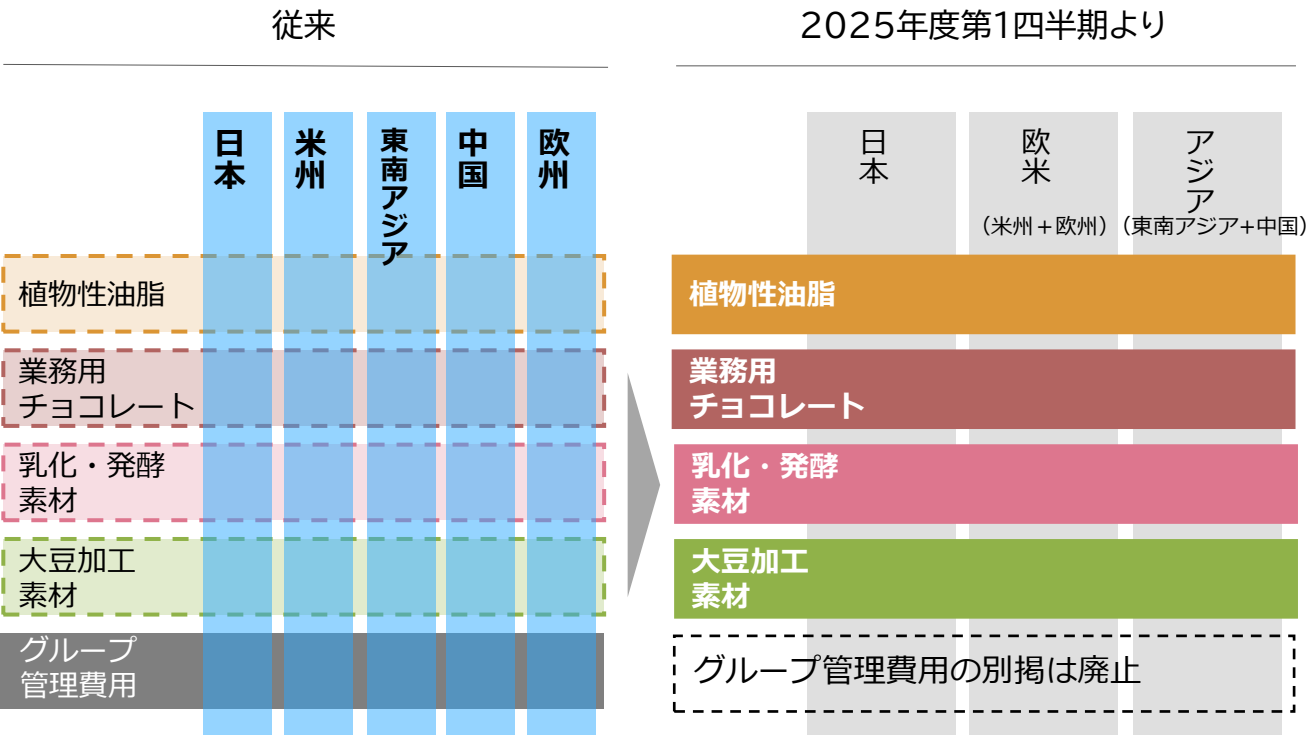
為替レート

		2024年度 3Q	2024年度 期末	2025年度 3Q	前期比		2025年度 予想前提
					差	増減率	
\$	P/L	152.57	152.58	148.74	▲3.83	▲2.5%	148.74
	B/S	158.18	149.52	156.56	+7.04	+4.7%	-
BRL	P/L	27.65	27.26	27.06	▲0.59	▲2.1%	27.06
	B/S	25.55	26.04	28.45	+2.41	+9.3%	-
€	P/L	164.83	163.75	171.83	+7.00	+4.2%	171.83
	B/S	164.92	162.08	184.33	+22.25	+13.7%	-
人民 元	P/L	21.15	21.10	20.78	▲0.37	▲1.7%	20.78
	B/S	21.67	20.59	22.36	+1.77	+8.6%	-

- ・P/L: 期中平均レート、B/S: 期末レート
- ・P/Lは前年同期、B/Sは前年度期末(2024年度期末)を比較
- ・予想前提P/Lレートは、2月修正予想に合わせ見直した数値

マネジメントアプローチに基づくセグメント情報の変更

- ・2025年度よりグループ本社制(純粋持株会社制)から事業持株会社制へ移行。
- ・マネジメントアプローチに基づき、事業損益の実態をより適切に反映させるため、2025年度よりグループ共通経費を各事業に配賦し、開示エリアは日本、欧米、アジアの3エリアに変更。



事業別業績推移



植物性油脂

(単位:億円)

	日本基準			IFRS		
売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	223	290	492	457	477	632
Q2	247	326	522	471	490	687
Q3	252	347	523	469	550	698
Q4	262	385	498	457	556	
通期	984	1,350	2,034	1,854	2,073	2,017

	日本基準			IFRS		
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	18	21	16	31	44	90
Q2	16	22	17	44	64	96
Q3	22	14	19	42	72	80
Q4	23	17	18	37	82	
通期	79	74	70	154	263	266



業務用チョコレート

(単位:億円)

	日本基準			IFRS		
売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	353	417	479	550	736	876
Q2	398	459	576	616	823	927
Q3	470	502	619	701	861	1,023
Q4	404	477	611	667	927	
通期	1,624	1,855	2,285	2,534	3,347	2,826

	日本基準			IFRS		
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	20	11	10	4	29	▲33
Q2	8	17	17	3	▲95	▲2
Q3	26	24	14	▲10	▲113	49
Q4	22	23	9	21	21	
通期	76	75	50	18	▲158	14

* 2020年度～2024年度は、日本基準の営業利益。2025年度以降はIFRSでの事業利益。
 * 2024年度まで全社費用としてセグメントに配分していないグループ管理費用を、2025年度よりセグメントに配分して記載。
 * 上記の業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

事業別業績推移



乳化・発酵素材

(単位:億円)

	日本基準				IFRS	
売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	165	190	225	215	221	225
Q2	168	187	221	222	231	244
Q3	196	218	252	243	259	265
Q4	167	197	214	220	230	
通期	696	791	912	899	942	734

	日本基準				IFRS	
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	2	7	2	6	9	1
Q2	6	3	▲2	9	9	4
Q3	16	7	9	16	13	9
Q4	6	▲0	6	8	4	
通期	30	16	15	38	34	14



大豆加工素材

(単位:億円)

	日本基準				IFRS	
売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	86	90	83	89	90	85
Q2	87	85	86	91	91	80
Q3	88	86	89	92	89	85
Q4	83	80	85	83	81	
通期	344	342	343	355	351	250

	日本基準				IFRS	
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	12	11	6	4	3	▲0
Q2	9	6	4	6	5	1
Q3	6	3	4	3	▲0	▲3
Q4	5	0	▲1	▲2	▲1	
通期	32	21	13	10	7	▲2

* 2020年度～2024年度は、日本基準の営業利益。2025年度以降はIFRSでの事業利益。
 * 2024年度まで全社費用としてセグメントに配分していないグループ管理費用を、2025年度よりセグメントに配分して記載。
 * 上記の業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

主要指標(PL項目)

主要指標

大項目	項目	単位	備考	IFRS				
				FY2024	FY2025(累計実績)			
					1Q	2Q	3Q	4Q
PL項目	事業利益	億円		133	57	154	288	
	事業利益成長率	%		-	▲32.1%	131.6%	700.7%	
	EBITDA	億円		307	96	241	434	
	設備投資	億円	有形固定資産の設備投資	278	78	143	205	
	減価償却	億円	有形固定資産の減価償却費	161	39	88	128	
	ROA	%	税引前当期利益÷総資産	1.3%	2.2%	3.6%	4.8% ^{*3}	
	ROE	%	売上高純利益率×総資産回転率 ×財務レバレッジ	1.8%	6.3%	8.0%	9.8%	
	売上高純利益率	%	親会社の所有者に帰属する当期利益÷売上高	0.6%	1.8%	2.3%	2.8%	
	総資産回転率	回	売上高÷総資産	1.25	1.20	1.20	1.22	
	財務レバレッジ	倍	総資産÷親会社の所有者に帰属する持分	2.9	3.0	3.0	2.8	
	ROIC	%	営業利益×(1-法人税率)÷(期末株主資本+有利子負債)	1.6%	2.7%	3.6%	4.5%	
	EPS	円		44.94	37.78	99.32	190.47	

設備投資額	内訳	FY2025 3Q累計
植物性油脂事業	欧米設備投資等	52
業務用チョコレート事業	ブラマー設備投資等	90
乳化・発酵素材事業	日本設備投資等	33
大豆加工素材事業	日本設備投資等	26
全社計		205

FUJI ROIC 税引後事業利益÷(運転資本+固定資産+持分法投資)	FY2024 3Q累計 ^{*4}	FY2025 3Q累計
植物性油脂事業	11.5%	11.6%
業務用チョコレート事業	▲6.1%	0.2%
乳化・発酵素材事業	2.6%	1.4%
大豆加工素材事業	▲0.5%	▲0.3%
全社計	0.6%	3.8%

*1 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。

*2 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

*3 ROA、ROE、ROIC：年間換算した参考値を記載。

*4 会計基準変更の主な内容を反映させた参考値。

主要指標(BS・CF項目)

主要指標

大項目	項目	単位	備考	IFRS				
				FY2024	FY2025(累計実績)			
					1Q	2Q	3Q	4Q
BS項目	総資産	億円		5,971	6,080	6,504	6,797	
	有利子負債	億円		2,837	2,885	3,095	3,233	
	NET有利子負債	億円		2,129	2,542	2,641	2,795	
	運転資本	億円		2,267	2,355	2,421	2,708	
	NET運転資本	億円	流動資産-流動負債	881	549	898	980	
	親会社所有者帰属持分比率* ³	%		34.7%	33.9%	33.7%	35.2%	
	負債比率	%		186.6%	193.2%	194.8%	182.6%	
	のれん(広義)* ⁵	億円	のれん(広義)とは、のれんに加え、商標権、その他無形固定資産等を含んだもの	484	594	608	631	
	のれん(広義)資本比率	%		23%	28%	27%	26%	
	D/Eレシオ	倍	有利子負債÷親会社の所有者に帰属する持分	1.37	1.40	1.41	1.35	
CF項目	Net D/Eレシオ	倍	Net有利子負債(有利子負債-現預金)÷株主資本* ⁴	1.25	1.48	1.49	1.53	
	営業キャッシュフロー	億円		▲491	▲126	▲95	▲90	
	投資キャッシュフロー	億円		▲218	▲234	▲331	▲412	
	フリーキャッシュフロー	億円		▲708	▲360	▲426	▲501	
	財務キャッシュフロー	億円		1,134	5	174	198	
	CCC	日		123	118	118	128	

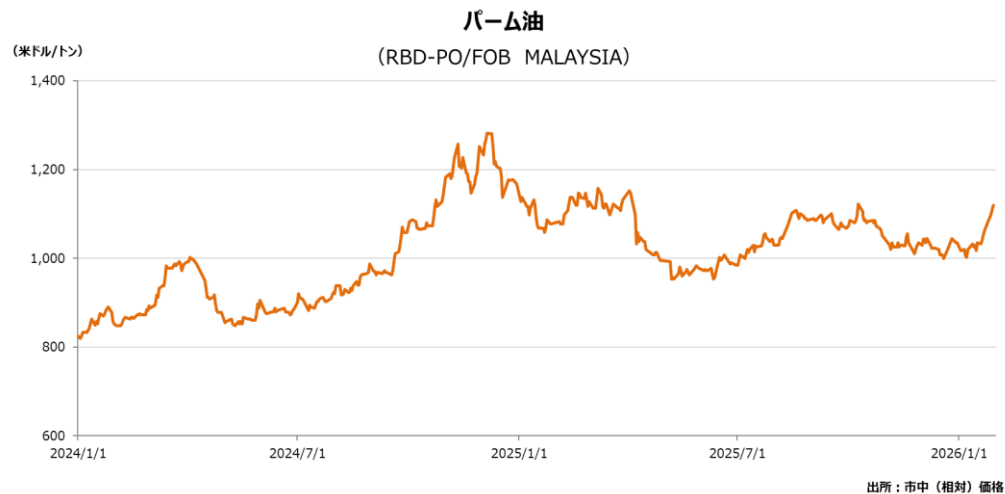
*¹ 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。*² 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。*³ 日本基準における自己資本比率。*⁴ 株主資本:親会社の所有者に帰属する持分 - その他の資本の構成要素*⁵ 新規連結会社の取得価格の確定に伴い、遡及修正。

主要製品群の販売数量推移(前年同期比)

セグメント	エリア	製品群	FY2024 実績(四半期3カ月間の比較)					FY2025 実績(四半期3カ月間の比較)				
			1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
植物性油脂	日本	チョコレート用油脂 (CBE、CBR、CBS)	106%	106%	110%	101%	106%	102%	106%	110%		
	米州		84%	89%	94%	75%	85%	76%	101%	62%		
	東南アジア		104%	137%	117%	109%	116%	108%	77%	93%		
	欧州		102%	94%	95%	90%	95%	112%	110%	98%		
業務用 チョコレート	日本	チョコレート (カカオ製品含む)	103%	102%	99%	103%	102%	100%	97%	100%		
	米州(ブラジル)		98%	99%	108%	105%	103%	125%	104%	107%		
	東南アジア		117%	113%	107%	111%	112%	96%	100%	107%		
	中国		110%	96%	118%	81%	101%	96%	103%	106%		
	欧州		107%	101%	115%	81%	101%	94%	108%	87%		
	合計(ブラマー除く)		106%	103%	106%	103%	105%	105%	102%	103%		
	ブラマー		84%	77%	76%	78%	79%	87%	82%	86%		
	合計(ブラマー含む)		95%	91%	93%	93%	93%	97%	94%	97%		
乳化・発酵素材	日本	クリーム	98%	97%	93%	101%	97%	101%	104%	101%		
		マーガリン ショートニング	101%	102%	100%	97%	100%	96%	96%	96%		
	東南アジア	クリーム	97%	109%	118%	111%	109%	86%	101%	91%		
	中国	マーガリン ショートニング	88%	95%	126%	92%	100%	117%	117%	81%		
		フィリング	104%	108%	95%	106%	103%	93%	98%	94%		
大豆加工素材	日本	大豆たん白素材	100%	102%	96%	100%	99%	99%	94%	103%		
		機能剤	99%	92%	106%	96%	98%	89%	83%	79%		

* 製品区分の見直し等により、過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき記載。
* 2024年度に決算期変更を実施したブラマーの販売数量推移は前年同月との比較。

主要原料推移（～2026年1月末）



市況

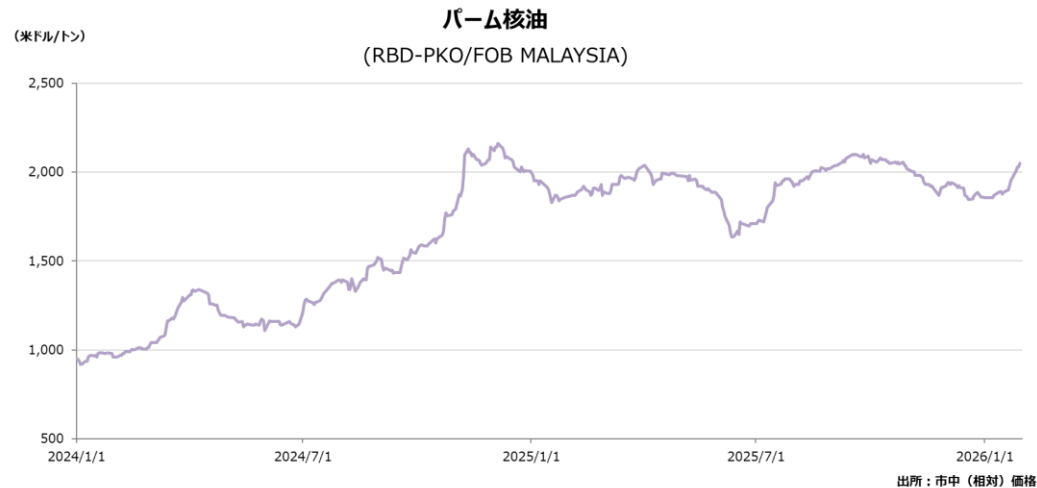
2025年10月は、良好な天候による生産増と在庫の高水準を背景に、相場は軟調。2026年1月はインドネシアのバイオ燃料政策の延期報道で一時下落後、インドの需要回復を見込み、相場は持ち直し。

（強材料）

バイオ燃料用途での堅調な需要。
インドネシアでの輸出税引き上げ懸念。インドの需要回復見込み。

（弱材料）

インドネシアのバイオ燃料政策延期。マレーシアの在庫の高水準。



市況

2025年10月は、良好な天候等による生産改善やヤシ油相場下落に連動し、パーム核油相場は下落。その後、マレーシアのパーム核油在庫の相対的な低水準を背景に、相場は底堅く推移。

（強材料）

マレーシアのパーム核油在庫の相対的低水準。
インドネシアでの輸出税引き上げ懸念。

（弱材料）

ヤシ油相場との連れ安。

主要原料推移（～2026年1月末）



市況

世界的なチョコレート需要の減退により、相場の下落基調が継続。

（強材料）

弱材料の出尽くし感により反発する可能性。

（弱材料）

チョコレート需要減退。中南米地域での生産量の増加の見通し。



市況

米中貿易摩擦の緩和期待を背景に、2025年10月は一時的に相場は上昇したものの、米国産大豆の中国向け輸出ペース鈍化への懸念やブラジル産大豆豊作観測を受け、相場は下落。

（強材料）

米国でのバイオマス由来再生ディーゼル需要の増加。

（弱材料）

豊富な米国期末在庫。ブラジル産大豆の豊作観測。

CDP2025水セキュリティでA(最高評価)、 フォレスト、気候変動でA-の評価獲得

不二製油グループは、国際環境非営利団体CDPより水セキュリティで最高評価である「Aリスト企業」に選定されました。さらに、フォレスト(森林)、気候変動でA-の評価をいただきました。不二製油グループは、環境基本方針、生物多様性方針ならびにパーム油、カカオ、大豆、シアカーネルの責任ある調達方針のもと、ステークホルダーの人権を尊重しながら、水資源・気候変動・森林資源に関する環境負荷低減活動をバリューチェーン全体で推進しています。また、TNFDアダプターとして登録し、自然と気候への取組みをTNFDおよびTCFDの枠組に沿って開示しています。

水資源のサステナビリティ

生産拠点では節水や水の再利用を推進し排水管理を徹底することで、水関連リスクの低減に努めています。また、パーム油小規模農家への環境再生型農業の支援では、化学肥料の使用を低減することで河川の汚染防止に貢献しています。

森林資源の保全と再生

主要原料のサプライチェーンにおけるトレーサビリティ向上を図り、森林破壊防止と森林再生に継続的に取り組んでいます。ステークホルダーのエンパワーメントを通じて持続可能な調達を推進しています。

気候変動への対応

「不二製油グループ環境ビジョン2030/2050」のもと、2030年度までにSBT1.5℃レベルのGHG排出量削減、さらに2050年度ネットゼロを目指しています。農業などの土地利用におけるGHG排出量を対象としたFLAG目標を策定し、サプライヤー等と協働して取り組んでいます。



MIRA-Dashi®が第55回食品産業技術功労賞を受賞

不二製油株式会社の製造・販売する植物性のダシ「MIRA-Dashi®」が、食品産業新聞社主催の「第55回 食品産業技術功労賞〈商品・技術部門〉」を受賞しました。MIRA-Dashi®は植物性の油脂とたん白の技術融合により、植物性素材で動物性食品特有の満足感・風味を実現したダシ製品です。食の多様化、人手不足、持続可能な食の未来への貢献が期待できる点などが評価され、今回の受賞に繋がりました。

「MIRA-Dashi®」は、弊社が70年以上培ってきた油脂とたん白の知見を融合させた技術ブランド「MIRACORE®」から生まれた植物性ダシシリーズです。動物性食品が持つ特有の満足感を植物性で表現し、現在はチキンタイプ、ビーフタイプ、カツオタイプ、貝タイプ、白湯タイプの5種類を展開。外食・ホテル産業を中心に広がり、動物性と遜色ない料理ができると高く評価いただいています。

MIRA-Dashi®は、「おいしい」の多様な選択肢を提供する当社ブランド「GOODNOON」の製品でもあります。誰もが食を楽しめる世界の実現に挑戦し続けます。

引き続き当社は、お客様の課題に寄り添い、植物性素材の知見をいかした製品開発を通じて社会に貢献します。



主なトピックス、ピックアップ

植物性油脂事業 スモールミーティングを開催

2025年12月22日、広沢油脂事業本部長による植物性油脂事業の投資家向けスモールミーティングをオンラインで開催しました。植物性油脂事業は、2023年度および2024年度に大きく収益を拡大しました。本ミーティングでは、成長要因を「広義のチョコレート用油脂」と「その他製品」に分類して説明しました。カカオ価格の高騰を背景にチョコレート用油脂の需要が伸長したことに加え、「その他製品」についても近年収益性が向上しています。その根底には、当社が取り組んできたサステナブルなサプライチェーンの構築があり、これが事業全体の競争力強化に寄与していることをお伝えしました。

資料

<https://www.fujioil.co.jp/pdf/ir/library/hosoku/251225.pdf>


当社IR情報サイトが外部2機関より 高評価を獲得

大和インバスター・リレーションズ株式会社が選定する「2025年インターネットIR表彰」において、当社IR情報サイトが「優良賞」を獲得しました。また、日興アイ・アール株式会社が公表する「全上場企業ホームページ充実度ランキング」において、総合部門「最優秀サイト」に選定されました。

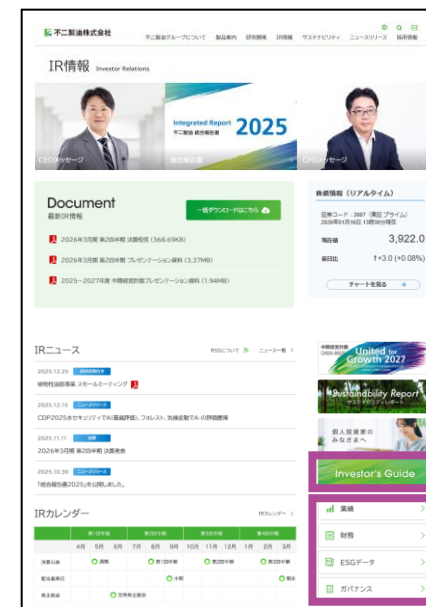
今後も、企業情報のさらなる充実化を図り、より多くの株主・投資家の皆様に当社への理解を深めていただけるよう取り組んでいきます。



IR情報サイト トップページをリニューアル

2025年12月、当社IR情報サイトのトップページをリニューアルしました。当社への理解をより深めていただくことを目的に、新たに英語版コンテンツ「Investor's Guide」を掲載しました。また、株主・投資家の皆様が頻繁にご覧になる業績情報やESGデータなどのバナーをトップページに配置し、情報へのアクセス性向上を図りました。

IR情報サイト

<https://www.fujioil.co.jp/ir/>


Investor's Guide

業績やESGデータなどのバナー

3. 参考資料

リンク先

不二製油株式会社

IR情報サイト

<https://www.fujioil.co.jp/ir/>



統合報告書

<https://www.fujioil.co.jp/ir/library/integrated-report/>



Investor's Guide

https://www.fujioil.co.jp/en/pdf/ir/investorsguide_en.pdf



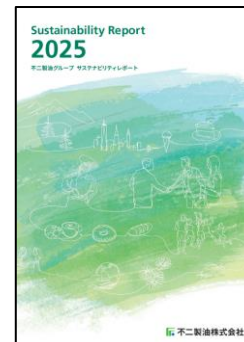
個人投資家の皆さまへ

<https://www.fujioil.co.jp/ir/individual/>



サステナビリティレポート

<https://www.fujioil.co.jp/sustainability/>



用語集

<https://www.fujioil.co.jp/ir/other/glossary/>

用語集

あ行 か行 さ行 た行 は行 ま行 ら行 英数字

コンパウンドチョコレート

チョコレートの主原料のカカオ、乳、砂糖、油脂のうち、油脂に植物性油脂からつくられるチョコレート用油脂を用いて作られたチョコレート。
チョコレート用油脂を用いることで速乾性・耐熱性などの機能を持ち、パンや洋菓子など、広い用途に用いられる。ココアバター含量が少ないココアを併用して使用することが多い。

関連「チョコレート」「チョコレート用油脂」



不二製油株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、予想の前提、予測を含んで記載しており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。